

平成26年度 特別活動にかかわる現状と課題

部長 長谷川 敬子

1 特別活動の動向

16地区から活動報告が寄せられた。今こそ特別活動の充実により安心・安定した学級学校づくりを行わねばならないという強い意欲に基づき、社会性育成、より良い人間関係の構築、望ましい集団づくりに向けての熱い研修が行われている。

<特徴的な取組>

① 市全体の目指す方向と合致した特別活動部の取組から

新潟市は、「自律性」「社会性」を育てる4つの視点に「目的意識」「自己決定」「個性・能力」「協同性」を掲げている。部の研究そのものが市が目指す子ども一人一人の成長と合致しており、年2回の研修講座と2つの授業研究、そして、市内児童による5つの分科会での情報交換会を行っている。また、魚沼市は、全小中で3年間「温かい学級づくり支援事業」を立ち上げ、本部員が中核を担っている。QU調査を手段に学級集団の実態を見極め、一人一人に寄り添って学力向上や不登校減少を目指している。年3度の中央の著名な講師による全員研修や「温かい学級づくり全体計画」が完成している入広瀬小に学ぶ等、市全体で親和的な学級集団づくりへの挑戦を行っている。

② 講演会、講習会から学ぶ

14地域が講演会を実施しており、その大半が「学級づくり」や「学級会での話し合い」に焦点が当てられている。学級会の事前準備や意図的な教師の出場等を学ぶ地域が多い。「そんなことしていると先生に言うよ。」から「そんなことしているとみんなに言うよ。」と言える学級を。「感じる力」「考える力」「行動する力」の3つを大切に教師自身がわくわくする体験をせよ。等々、学級づくりの要諦を学んでいる。三条市では、春に講演を聞き、各自実践をし、同じ指導者に2回目の公開授業での指導を依頼している。佐渡市では部員からの事前アンケートを基に講師に講演内容を依頼し効果を上げている。南魚沼市では、県立教育センターからの講師による理論講習と合わせ対人関係ゲームの実技講習を行い、楽しみながら研修を進めている。

③ 授業研究から学ぶ

7地域が公開授業から研究を深めた。柏崎市立枇杷島小学校では、県小教研指定により「あたたかい人間関係を共に築こうとする子の育成」をテーマに3つの学年で学級活動を公開した。「児童の発議を大事にする議題設定での支援」「思いを深めていく構造化した話し合い」「授業展開ごとの評価規準の設定」「話型の指導」により、子どもが確実に成長している。

④ 実践レポートから学ぶ

4地区が実践レポート研修を実施した。妙高市ではそれぞれの学校の特色が出おり、縦割り班活動での社会性育成の例が多かった。姫川原小では全校宿泊体験を行い、先行研究を基に考案した自尊感情アンケート（40問）で行う評価方法も紹介している。

2 今後の課題

部員の少ない地区も多いが、特別活動が変われば学校が変わるという意気込みで、学校や地域の課題に応じた、計画的な実効性のある研修を期待する。